

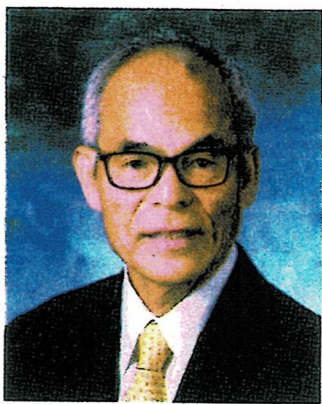
伊方のくらし



伊方町教育委員会

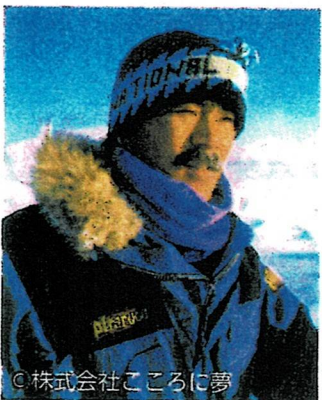
(3) 伊方から世界へ

伊方町には、今までのことにとらわれることなく、新しいことにチャレンジしてきた人がたくさんいます。愛媛県の外に出るだけでなく、国をこえて世界で活やくする人たちがいます。次にしょうかいする人たち以外にもどんな人がいるか調べてみましょう。



なかむらしゅうじ
中村修二

大久で生まれた中村修二（1954～）先生は、徳島の会社で働いていた1993年に、そのころ世界中の科学者がつくろうとしてなかなかつくれなかった「青色発光ダイオード（LED）」という青い光の電灯をたくさんつくるぎじゅつを生み出しました。この発明を使って世界中の人々に明るい電灯をとどけられるようになり、多くの人によろこばれました。2014年にはノーベル物理学賞という世界的な賞をとりました。



こうのひょういち
河野兵市

河野兵市（1958～2001）さんは、川之浜の生まれで、小さいころから海と山で体をきたえ、22歳のときに自転車で世界一周をめざしました。その後も世界中の高い山に登ったり、大きな川を下ったり、さばくを歩いてわたったりと、さまざまなぼうけんにいどみました。1997年には日本人で初めて北極点まで一人で歩いて行くぼうけんにちょう戦して、みごとに成功しました。2001年には今度は北極点から佐田岬半島をめざすぼうけんにちょう戦しましたがとちゅうでそうなんしました。

植田虎一（1854～1921）さんと加藤太郎松（1857～1936）さんは、ともに串の生まれで、地いきの人々とたがいに協力して「丸一組合」という集まりを作って、魚をとったり、いりこやすめるめをつくったり、かんづめにして大阪で売ったりして地いきの産業をもちたてました。また船に乗って朝鮮半島の方へ漁に出るなどして、大きな成果をあげました。